

議事録

主題：令和3年度 第二回大津町振興総合計画等評価委員会

日時：2021年11月2日(火) 10:00～12:00

場所：大津町役場 3階 会議室302

| | | |
|--------------|---|--|
| 出席者 (敬称略) | 評価委員会 | 黄在南委員長、家入立身副委員長、松本光行委員、小西悦子委員、吉田和信委員、松本カズヨ委員、大村吉幸委員、橋本千春委員、山下和貴委員、中尾精一委員、宇野馨委員 |
| | 大津町役場 | 金田英樹町長 藤本総務部長 総合政策課：木村課長、濱洲審議員、山田主幹、田邊参事、桐原主事ほか関係各課 |
| | NTTデータ経営研究所 | 大野、坂田 |
| 欠席者 (敬称略) | 國武幸弘委員、大村吉幸委員 | |
| 入手資料 | <ul style="list-style-type: none">・令和3年度 第2回大津町振興総合計画等評価委員会 会次第・令和3年度 大津町振興総合計画等評価委員会日程表・大津町振興総合計画等評価委員会設置要綱・大津町振興総合計画等評価委員会委員名簿・大津町振興総合計画等評価委員会座席表・令和2年度 施策評価資料 | |
| Todo | <ul style="list-style-type: none">・矢護川コミュニティセンターの運営管理をしている生涯学習課の担当に野外学習センターの利用率について回答を依頼する。 | |

議事内容

1. 開会

2. 委員長挨拶

委員長より挨拶

- 先日の第1回委員会では、事務局から丁寧なご説明、委員の皆様から貴重なご意見を賜った。お礼を申し上げたい。
- 最近では、強いリーダーが良いのか、温かいリーダーが良いのか、大学で学生と議論している。通常強いリーダーが良いのではないかといわれるが、最近の社会心理学研究では温かいリーダーからスタートするのが良いといわれている。温かい町を作っていただきたい。温かさのベースに信頼感がある。子供と親の関係を見ればわかる。大人になって子供は親を敵にしない。
- 温かい町を作るには信頼されなければならない。信頼されるためには約束を守ることが重要であると思う。今日もよろしくお願ひしたい。

3. 議事

〈大綱「4. 生活環境基盤」分野について〉

4-1-1 計画的な土地利用の推進（評価 A）

- 特になし

4-1-2 中心市街地（新庁舎周辺）の活性化（評価 A）

- 以前から豊肥線によって分断していると言われている。駅の北から南に行きたい人が駅の構内を移動できるものの、知られていない状況と思うため、周知した方が良いかと思う。JR との連携は難しいのか。（委員）
- 駅構内の横断について今後周知していきたい。今後、JR の方と協議する機会があるため、自由に南北移動できるように話し合いたいと思う。（総務部）

4-1-3 南部・北部まちづくり計画の推進（評価 A）

- 野外学習センターにバーベキュー場を整備されているが、利用率はどうなっているか。（委員）
- 生涯学習課に連絡して、隨時連携する。（総務部）
- 岩戸の里跡地は眺めが良い場所であると思うが、どのように開発する想定か。今後、南部での開発は江藤家住宅の記載にどまっている。近くで、地区のグランドゴルフが行われ、賑わいを見せていたものの、トイレが周辺に見当たらなかったため、あれば良いと思った。（委員）
- 岩戸の里跡地は、東側はふれあい公園と位置づけ、グランドゴルフ等に活用いただいている。西側の施設については、企業誘致も含めて検討しているが、誘致の目途は立っていない。トイレについては、近くの「みんなのおうち」に入るとある。また、岩戸神社の方にもトイレがあるが、周知が足りていなかつたと思う。（総務部）

4-1-4 新たな活力拠点の創出（評価 B）

- 大津町の産業が変わる中で、肥後大津駅界隈の発展性が高くなる。肥後大津駅の北側の商店街と南側の商店街では歴史・文化が変化しており、南北を結ぶのが駅の構内の通路となっている現状がある。大津町で買い物に行く場所を考えた際に、菊陽・大津・合志で比較した結果、空港から近いことが優位性になるため、駅の周辺強化を重点的に総合計画に記載した方が良い。交流人口として流れてくることや南阿蘇鉄道の誘致を考える上でも肥後大津駅周辺強化を強く打ち出してほしい。これまでの流れと変えて、重点施策として取り組んでいただきたい。（委員）
- 現在では、飲食店の活性化、駅北南のイルミネーションを行っている。肥後大津駅は、各方面から人が集まる場となっている。駅近くの中央公園に世界的に有名なワンピースのゾロ像が完成するため、誘導していきたい。駅の高架等についても今後検討課題としたい。（総務部）
- 基本構想は「夢と希望が叶う」となっていたが、阿蘇熊本空港から肥後大津駅に向かう観光客に対して駅前にどういった施設があるかは重要である。現在、南側には老朽化しておりテナントが入っていないビルがあるが、再開発は検討していないのか。（委員）
- 財源の関係も踏まえて、今回の総合計画の対象の 4 年間では対応できないものと考えているが、今後の開発を視野に入れて駅南側の開発について住民と協議していきたい。（総務部）

部)

- 今回の後期総合計画の策定は大きな節目であり、変革する大きな転機なのではないかという観点もあるとは思う。(委員長)

4-2-1 効率的・効果的な都市基盤の整備(評価 B)

- 特になし

4-2-2 身近な公園・緑地の整備 (評価 A)

- 身近な公園の整備は、どういう計画で整備を推進しているのか。(委員)
- 公園は、11箇所管理している。長寿命化計画により、随時D判定の部分の箇所についてトイレや遊具を中心に整備している。開発地である住宅街の公園については、地域の方に管理を依頼しており、地元で管理できない箇所の整備については、区長と協議している。遊具に対する調査により、危ない遊具があつたため、点検の仕方について検討している。(都市整備部)

4-2-3 良質な住環境の確保 (評価 B)

- 特になし

4-2-4 熊本地震からの創造的復旧・復興 (評価 A)

- 特になし

4-3-1 下水道の整備 (評価 A)

- 特になし

4-3-2 工業用水道の安定供給(評価 A)

- 特になし

4-4-1 総合的な道路網の形成 (評価 B)

- 特になし

4-4-2 安全・安心な生活道路の形成(評価 B)

- 通学路の整備については教育委員会としても有難く思っている。整備箇所の優先順位についても計画を押さえながら推進しているものの、道路新設事業と道路整備事業がB評価となっている。指標としては目標値につながっており、課題は解決しているようにみえるが、B評価にした理由は何か。また、危険地帯への対応について教えてほしい。(委員)
- 道路新設事業は完了したものの、事業用道路の整備が進んでいないためB評価とした。都市再生整備事業については、用地は8割整備が完了しているが、所有者不明の土地の整備が進んでいないためB評価としている。土地について用地の確保の交渉中である。危険箇所の対応については、大津町では、事業を年間委託している。住民からのご要望箇所を踏まえ、建設職員が同伴して対応している。最近ではアプリを利用したメールの発信で情報共有するサービスもあり、隨時お知らせ頂いて危険箇所を把握している。(都市整備部)

- 阿蘇市は生活道路の草が綺麗に刈られているようだが、大津町では草を刈る予定はないのか。(委員)
- 大規模林道は建設課にて整備が完了している。林道菊池大津線に橋梁が 3 箇所あるため、その点検をしている。道路の舗装と並行して、除草についても予算をあげていきたい。(都市整備部)
- バイパスで大きな事故があった。大型道路と小型道路の交差点においての安全対策について伺いたい。(委員)
- 県道は県の管理となっており、陥没している、道路標示が消えている部分については県の方に要望を出している。(都市整備部)
- 肥後大津駅から上に行ったところのらくぜん食堂とコンビニの交差点は通学路の要所となっている。災害があったときに一番混み合うところであると思うが、安全対策はどうなっているか。(委員)
- 白線や横断歩道等に対して予算化し安全対策を行っている。(総務部)

4-4-3 効率的・効果的な都市基盤の維持・整備（評価 A）

- 特になし

4-4-4 公共交通体系の整備(評価 B)

- 路線バスの客数が減少している。町の方で出している補助はこの先どのくらい補助していく予定か。スクールバスを運用することはないか。(委員)
- 広域の路線バスの利用率が低いところがあり、町として地域公共交通会議において各自治体や事業者共に赤字路線の見直しを検討している。路線が廃止となった場合の代替の輸送手段は検討している。(総務部)
- 路線バスに対する補助金はどの程度あるのか。(委員)
- 菊池線と山鹿線の二路線に対して、大津町が年間 1,600 万円の補助を出している。(総務部)

4-5-1 潤い豊かな水と緑の保全（評価 B）

- 特になし

4-5-2 循環型社会の形成（評価 A）

- 特になし

4-5-3 生活環境の向上(公害の防止と環境保全の促進)（評価 A）

- 特になし

4-5-4 温暖化対策の推進（評価 B）

- 災害が発生した場合の河川について心配している。施設の設備の問題点があると思うため、

伺いたい。(委員)

- 国の施策では脱炭素施策や温暖化対策のために再生可能エネルギーを推進していく。環境保全課としては、再生可能エネルギーの中では、太陽光発電が効果があると判断して重点的に推進している。河川への防災対策については、府内の防災関連・土木関連の部署と共同で話を進めている。(住民生活部)
- 平川は大津町が管理している。昨年度の令和 3 年に平川の河川堆積量の調査を終了している。この結果に基づいて最も河川堆積量が多かった地域を浚渫している。緊急浚渫事業を用いて次年度以降の下流側からの浚渫事業を進めていく。(都市整備部)
- メガソーラーの稼働状況について伺いたい。(委員)
- 町の北部では 4 箇所稼働している。次に 3 箇所稼働する予定である。町内全体のメガソーラーについては、16 箇所ほど登録されている。(住民生活部)
- 県はメガソーラーの設置を許可していると思うが、大津町の独自の判断はどのようにになっているか。(委員)
- 大きなメガソーラーを山林地域に設置する際は、林地開発となり、その要件に該当すれば許可する。ただし、町の意見等を聴取されるので、安全について要望していく。(住民生活部)
- 防災面が心配である。県が許可したとしても、地元住民としては大雨が降ったら怖い。大津町独自で厳しくできないか。(委員)
- 法律に基づいて許可されるものがあるので、地元の方と一緒に理解を求めたい。(住民生活部)

4-6-1 地域防犯対策の強化 (評価 B)

- 特になし

4-6-2 交通安全対策の推進 (評価 B)

- 特になし

4-6-3 消費生活の安全強化 (評価 A)

- 特になし

ネコの問題について

- 立石の方に猫がたくさんいるが、猫の手術代の助成はあるのか。(委員)
- 町の方で猫 1 匹あたり 5000 円の助成がある。県の方では、雄 5000 円、雌 10000 円の助成がある。県の方では、猫の放し飼いは無くしていく方向である。(住民生活部)

<大綱「5.町政運営」分野について>

5-1-1 地域防犯対策の強化 (評価 A)

- 特になし

5-1-2 地域コミュニティの活性化 (評価 A)

- 特になし

5-2-1 効率的で健全な行財政の運営（評価 B）

- 特になし

5-2-2 人材育成の推進（評価 A）

- 特になし

5-2-3 情報化の推進・情報基盤の強化（評価 A）

- 特になし

5-2-4 多角的な連携・交流の推進（評価 B）

- 特になし

5-2-5 熊本地震からの創造的な復旧・復興（評価 A）

- 私は、新庁舎の建設の委員会のメンバーとして入っていた、その際の意見を考慮いただいたことにお礼を伝えたい。新庁舎の身体障がい者用のトイレを利用した際に、要望であった右半身麻痺・左半身麻痺双方への対応だけでなく、視覚障がい者向けの音楽が流れていることに感動した。(委員)

5-3-1 危機管理体制の充実（評価 B）

- 特になし

5-3-2 災害への対応力の強化（評価 B）

- 特になし

5-3-3 災害に強い都市構造（評価 A）

- 特になし

5-3-4 消防・救急の推進（評価 B）

- 特になし

5-3-5 地域防災力の向上(評価 B)

- 自主防災組織の目標が 90%となっているものの、令和 2 年度は 65%と低い数値となっている。どのように数値を向上させる予定か。(委員)
- 65%となった理由としては、平成 18 年度に町がミニ特区として自主防災組織を支援してきたものの、九州北部豪雨を契機に平成 25 年度から防災力向上に向けた補助制度の仕組みが変更となり、69 自治区のうち、49 地区が町に届け出を出しているため 65%である。また、令和元年度までは町へ設立届がない自治区も含んでいたため、令和元年度から令和 2 年度にかけて「自主防災組織・組織率」が減少しているようにみえている。(総務部)
- 今年度、総合防災訓練があったが、どのくらいの区が防災訓練を実施したか。補助制度の終期はどのように考えているか。(委員)
- 各自治区で計画された区が 30 件であり、今後、実施予定の区を含めると 50 件程度になる。補助制度は、これまで自主防災組織設立に対する補助、備品に対する補助と形を変

えてきた。今後は、訓練の実施の補助を中心としていき、補助制度は 3 年を区切りに効果を見ていきたい。(総務部)

5-4-1 人権が尊重される地域づくり（評価 B）

- 特になし

5-4-2 男女共同参画の促進（評価 C）

- 女性の会の一員としては、男女共同参画の推進 C 評価になっていることが気がかりである。「一人ひとりの人権が尊重されている割合」の目標値 80%に達成するためにはどうすれば良いのかというと、女性のアピールが必要なのではないかと思う。令和 2 年度の値が約 42%となっているのは、日常的に感じてはいるが、表では言えなかった人が回答した結果であると思うため、町としては普段表では言えなかった人の思いを適切に情報発信する革新的な工夫が必要と感じる。女性の会も会員数が減少しているため、町の力を借りて積極的に情報発信していきたい。(委員)
- 男女共同参画の促進は、昨年コロナの影響で事業が実施できなかつたため、C 評価となっている。女性の意識は高まってきたものの、目標に達成できていないため情報発信については広報誌で特集を組む、HP の活用をする等工夫していきたいところである。(総務部)
- 本事業のみ C 評価であるため、注目してしまう。個々の職員が問題意識を持って、注視していることを受け止めて今後改善に向けて努力していくことを期待したい。また。アンケート調査をされているが、アンケート調査の場合は期間と対象者を明記しないとエビデンスとして不十分であるため、明記すべきである。(委員長)

以上